

講習科目名	【選択必修】子どもの心の理解と教師の健康増進をめざして	実施期日	8月17日(火)
時間数	6時間(90分×4)	講習形態	講義と実習
主な受講対象者	小学校・中学校・高等学校教諭、養護教諭	受入人数	30人
担当教員	金井嘉宏(教養学部准教授):1・2・3・4時限目担当		
講習の到達目標 (成績評価の観点)	<p>① 人間の心と行動のメカニズムを認知行動療法の観点から理解し、子どもや教師の心身の状態を考えることができる。</p> <p>② 子どもの情緒的問題・行動的問題や教師のメンタルヘルスの改善を目的とした認知行動療法の基礎を身につける。</p>		
講習の概要	<p>子どもたちの心身の状態や問題行動を理解し、その改善方法を学ぶとともに、教師のメンタルヘルスについても考える。その方法として、不安や抑うつなどの情緒的問題や不登校、攻撃行動といった問題行動にも有効であることが示されている認知行動療法を紹介する。子どもと教師の心身の健康について、講義をもとに各自の経験や問題について考え、ロールプレイやグループワークを通して実践力の向上をめざす。</p>		
講習計画	<p>1時限目:人間の心と行動のメカニズム(講義) 子どもたちの心身の健康状態や教育現場で問題となっている様々な行動のメカニズムについて認知行動療法の観点から理解する。</p> <p>2時限目:学校現場における認知行動療法の実際(講義・ワークシート作成) 子どもの情緒的問題や行動的問題、および教師のメンタルヘルスを改善するために認知行動療法がどのように行われるのかをワークシートの作成を通して学ぶ。</p> <p>3時限目:グループワーク(実習) 参加者自身の問題意識や体験、興味などを考慮して小集団のグループを構成する。各自が作成したワークシートをもとにグループ内で認知行動療法のロールプレイを行い、その後、相互にフィードバックを行う。取り上げた問題への解決方法についてグループ内でさらに話し合う。</p> <p>4時限目:グループワークによる成果発表(実習) 各グループで議論した内容を発表し、全体での議論を通して、よりよい対応策や今後の課題について考え、現場で役立つ実践力の向上をめざす。</p>		
評価方法	グループワークでの参加・発言・寄与状況等、および成果発表により評価する。		
教材・参考文献	講義当日にプリント資料を配付する。		
受講者に望むこと	本講習のテーマに関連して、ご自身が日頃感じている問題や疑問を2～3点あげ、それらについて簡潔に意見をまとめて事前提出してください(A4用紙1枚:1000字以内)。		
備考	上記資料は実習でのグループ分けに使用します。提出期限、提出方法については、後日お知らせします。		